

東北大学大学院情報科学研究科
言語変化・変異研究ユニット主催

講演会のご案内

講師

中山 俊秀 先生
(東京外国語大学教授)

日時： 2019年10月18日(金)～10月19日(土)
場所： 情報科学研究科棟3階小講義室

講演会：10月18日(金)15時～17時 「ヌートカ語(カナダの消滅危機先住民言語)の魅力と深み-ちょっと「想定外」の文法を楽しむ」

概要：本講演では、カナダの消滅危機に瀕した先住民言語ヌートカ語を紹介しながら、この言語の文法に見られるあまりなじみのない特徴や問題を取り上げ、言語の構造的多様性の広さと深さを感じ取ってもらう。とりわけ、一文に相当する意味内容を一語に詰め込むことを可能にする複統合的語形成 (polysynthesis)、品詞の区別の難しさ、口承言語における文の概念の不明瞭さ、などの「想定外」な特徴に焦点を当て、我々が言語や文法の作りに対して持っている「常識」や先入観の限界を明らかにしていく。

チュートリアル：10月19日(土)10時半～12時半 「言語の類型化の面白みと落とし穴」

概要：本チュートリアルでは、言語を類型化する研究(言語類型論)の利点と限界点もしくは危険性について考える。世界の言語の構造特徴を通言語的に類型化して捉えようとする研究は、個別言語の特徴を超えて、人間言語の基盤である認知能力の特徴、歴史的変化のメカニズム、社会的知識としての存在の仕方などの中にある規則性を明らかにすることが期待できるという点で、大きな意義と可能性があると思われる。しかしながら、その一方で、音韻法・形態法・統語法などの文法構造の諸側面は多面的に相互関連しており、類型化を急ぐと構造特徴を非常に居所的に捉え通言語的類型化スキームに押し込むことからくる弊害は大きい。そこで、このチュートリアルでは、類型化の方策だけではなく、普遍性や通言語的共通性と個別性をどのように考えるか、言語の構造的多様性をどのように捉えるべきかについても考えていきたい。

多数の方のご来聴を歓迎いたします(申し込み・参加費不要)

本講演会・チュートリアルは、東北大学運営費交付金、東北大学大学院情報科学研究科講演会・シンポジウム開催支援経費、科学研究費・基盤研究(C)課題番号16K02753(形態部門と統語部門にまたがる文文化と構文化についての統語論的研究)による補助を受けています。

問い合わせ先：小川芳樹(ogawa[at]ling.human.is.tohoku.ac.jp)

言語変化・変異研究ユニット URL:

<http://ling.human.is.tohoku.ac.jp/change/home.html>